

キャラクター名  プレイヤー名

メインクラス	プリースト	Lv.1:	アコライト	レベル	25
サポートクラス	メイジ	Lv.1:	メイジ	性別	N/A
称号クラス				年齢	12
種族	エクスマキナ			境遇	秘密
出自 (効果)	秘密結社			目標	人探し

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	25	10	12	47	21	33	6
ボーナス	8	3	4	15	7	11	2
クラス修正	0	1	0	2	1	3	1
他修正							
能力値	8	4	4	17	8	14	3

HP	198
MP	252
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ブーストシールド		0	0	0	9	0	-1	0
左手	ブーストロッド		-1	13					
頭部	守護の輪					5	5		
胴部	ジルコニアアーマー				-2	16			-2
補助	センチネルガード				-1	6	3		-1
装身具	高位聖印								
能力値			4	0	4	0	14	12	13
スキル	マシンアーマー、リンメルコーティング					9	8		
その他						3	6		
総計(右)			4	0					
総計(左)			3	13	1	48	36	11	10
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	8			8	+ 2 d
トラップ解除	4			4	+ 2 d
危険感知	8			8	+ 2 d
エネミー識別	17			17	+ 2 d
アイテム鑑定	17			17	+ 2 d
魔術判定	17	1	1	19	+ 4 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
メンテナンスキット	
ポーションホルダー	万能薬*3
EXMPポーション*5	
EXHPポーション*5	
祝福の花	
虹の輝き	
真紅の杯	
リムブースト・メタル	
プロフェットストラップ	

現在重量:	18	所持金:	155842	預金・借金:	
最大重量:	25				

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
チューニング	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 能力基本値をふたつ選択し、キャラクター作成時に、選択した能力基本値の片方に+4し、もう片方に-1								
プロテクション	○	2	DR直後	20m	単体	自動成功	1/MP	
効果: -[5D+30](補正込み)								
リンメルコーティング	★		パッシヴ					
効果: 両防御+5								
マジックハンド	★		パッシヴ					
効果: 魔術+1D								
コンセントレイション	★		パッシヴ					
効果: 魔術判定+1D								
アンプリファイア	★		パッシヴ					
効果: 魔術判定達成値+1、魔法攻撃ダメージ+2								
シールドブースト	◇		パッシヴ					
効果: ダメージ軽減魔術+SL*3								
ハイプロテクション	○		パッシヴ					
効果: 《プロテクション》に+5+SL*3								
バリア	★		パッシヴ					
効果: 《プロテクション》が1/攻撃になる								
ディフィブリレーター	★		パッシヴ					
効果: HP/MP回復のスキル/アイテムの効果に+1D								
ライトバースト	○		パッシヴ					
効果: 《ホーリーライト》の魔術判定+1D、ダメージ+SL*4								
ビリーブ	○		パッシヴ					
効果: 貫通魔法攻撃ダメージ+[SL*4]								
マジシャンズマイト	○		パッシヴ					
効果: 魔法攻撃ダメージ+SLD								
スピードブースト	◇		パッシヴ					
効果: 行動値増加減少に+SL*3								
ヒールブースト	◇		パッシヴ					
効果: 回復魔術+SL*5								

戦争とは愚かなものだと思います。

神が妖魔からその精神を護る為に与えたもうたその身体を、その知性を、その文明を、人々は互いを殺し合うために使ってしまう。

わたくし、RMA-IIIはとある研究所で生まれたと聞いています。  
異世界からやってきたというとあるアーシアンが、私を創ったそうです。  
この名前がどういった意味を持つかは知りませんが、彼の生まれ故郷の言葉では何らかの意味を持つそうです。

さて、少し昔話にお付き合いください。彼…私の生みの親、「博士」の話です。  
彼はどういう訳かこの世界にやってきて、そして町々に妖魔が蔓延り人々が住処を追われる状況を見て深く嘆きました。  
義憤に駆られた彼は、彼の持つ知識と、彼の持ってきた不思議な道具を使って、妖魔に対抗し得る「道具」を創り始めました。  
人々は彼の行いを気味悪がって遠巻きに見ていましたが、ある日ある宗教組織が彼に接触しました。  
その宗教組織は、彼の持ち合わせた技術と彼らの魔術の力を組み合わせることを提案致しました。  
彼はその発想にいたく感動し、瞬間に数体の魔術アンドロイドを創り上げました。  
彼はそのアンドロイドに人々を護る力と、妖魔に対抗する術を与えました。  
その内の数体には、人間と同じような感情をもてるようにしました。  
彼の発明品は人々を苦しめていた妖魔を追い払いました。

争いは終わりました。  
そして町の人々には癒しと、安らぎと、信仰が訪れました。  
妖魔の居ない、人々が争いに怯えない平和な世界を。



